

しながわ

平成26年(2014)
8/1
1923号



☎140-8715 品川区広町2-1-36 代表番号 ☎3777-1111 広報広聴課 ☎5742-6644 Fax5742-6870 <http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>

新しい品川区史

品川区史2014

歴史と未来をつなぐまち しながわ

8月22日刊行

しながわの歴史はもちろん、区内各地域のあゆみと特色、そこに生きる人たちの姿をまとめた、新しい品川区史を刊行します。“見て” “読んで” “調べて” 楽しめる区史になりました。

写真・図版約1000点を掲載！

区民生活やまちの変遷、区政のトピックス、地域のイベントなど、目で見える区史としても楽しめます。遺跡の位置や大名屋敷のあった場所、古道といまの道、実際に戦火に遭った場所……〈しながわならでは〉の地図も満載。

●構成

第Ⅰ部 しながわのあゆみ (品川区通史)

序章は、明治から終戦までの「近代のしながわ」を象徴する9つのテーマで構成。第1章から第3章では、品川区誕生から現在までの区と区民生活のあゆみを伝えます。第4章は「つながる」「あきなう」「つくる」——をキーワードに、いまのしながわを活写！

第Ⅱ部 しながわのまち 地域のあゆみとすがた

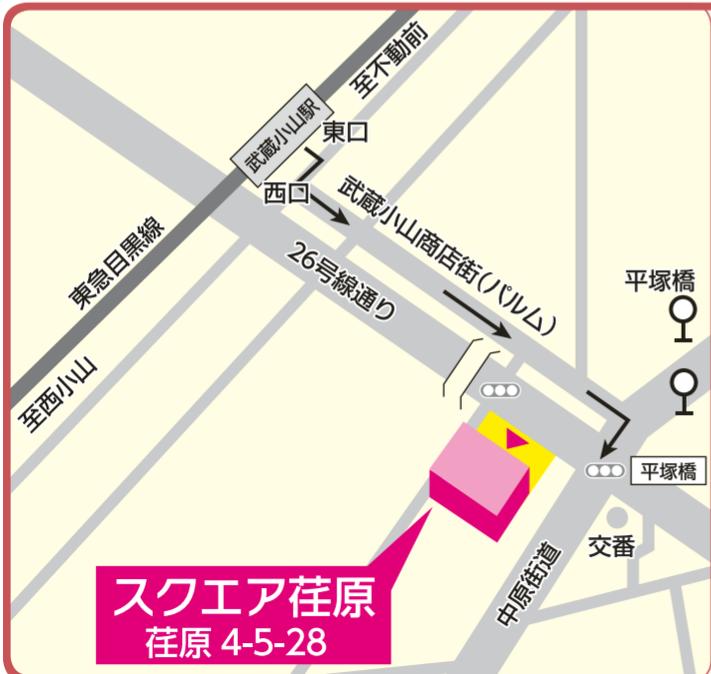
品川・大崎・大井・荏原・八潮の各地区を、それぞれの地区の歴史とそこに住む人たちの生活の変遷を軸に構成。地区ごとの特徴が一目でわかるテーマを抽出しました。

特論……特に時代を超えて品川区域に関わるテーマを、全体にちりばめました。



A4判／約400ページ／オールカラー
データ・映像のDVDディスク2枚つき
価格：4,500円（税込）

詳しくは、品川区ホームページの、[トップページ](#) > [品川区に関する資料](#) > [品川区の刊行物](#) > 「品川区史 2014」をご覧ください。



品川区史刊行記念シンポジウム

8月21日 日 午後6時30分～ ◎当日、直接会場へ

会場◎スクエア荏原 (武蔵小山商店街を通り抜けてすぐ)

パネル・ディスカッション

「品川区史に探る、しながわのおもしろさ」

パネラー◎坂詰秀一 区史編さん委員会委員長 (立正大学名誉教授)

竹内 誠 江戸東京博物館館長

鳥山 玲 日本画家 (品川区在住)

堀江新三 旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会会長 (敬称略、50音順)

■入場者全員に記念グッズをプレゼント！

■当日のみ、刊行記念特別価格で先行販売します。

※書店や区施設などでの販売は22日(金)からになります。

大名屋敷から庭園に——戸越公園の歴史

まちの中にある緑

品川区内の航空写真を見ると、その中央に樹木で囲まれた場所がある。広さ1万8255㎡の戸越公園である。戦後まもない昭和25（1950）年、戸越公園は区内の公園全面積の4割以上を占めていた。それから60年以上経ち、多くの公園がつけられ、人々の憩いの場。そして緑が格段に増えたものの、戸越公園の緑は地域の貴重な財産であり、またその歴史ともあわせて、地域のシンボルとなっている。

戸越公園は大名下屋敷に由来する。寛文2（1662）年に肥後国熊本藩の分家、細川利重がこの地に屋敷を拝領し、のちに、本家の肥後国熊本藩の下屋敷となる（53ページ参照）。その後、西側の土地を戸越村、中延村、下蛇窪村の3か村から抱え上げ、10万坪（約33万㎡）近い大きな屋敷となるが、完成から約11年でその部分は村々に返され、3万3309坪（約10万9200㎡）と、ほぼ当初の大きくなった。品川歴史館に展示されている熊本藩細川家戸越下屋敷の模様がそれである。その土地のうち幕府からの拝領地は7200坪（2万3760㎡）で、残りの2万6109坪（約8万6160㎡）は戸越村・下蛇窪村の土地を借り受けたものであった。その下屋敷は宝暦8（1758）年に南側3729・



上空から見た戸越公園付近（平成20年）



寛文2年拝領時の戸越下屋敷の範囲



熊本藩細川家戸越下屋敷模写

第2部 ながわのまち 地域のおゆみとすがた

戸越農園と三井別邸

明治になり、かつての戸越下屋敷の土地は人の手を経たのち、明治26（1893）年頃、大部分が三井財閥の所有になった。三井はそこに農園を設け、さまざまな花卉・果実の栽培・品種改良を行った（35ページ参照）。さらに敷地内に外交人接待用の別邸が建設された。現在の「文庫の森」公園の北東（三井坂を上ったところ）を正門に、池に面して和風の木造平屋建ての別邸と能楽堂が建てられ、大正7（1918）年に三井家の史料を収集した三井文庫が敷地内に開設された。別邸・農園・三井文庫と、三井家・三井財閥にとって、かつての大名下屋敷と同じような機能を、この地は持っていたのである。

しかし、関東大震災前後からの在原地の急激な都市化により、戸越下屋敷以来の区画をほぼ保ったこの地は、大きく変貌することになる。

戸越公園の開園

昭和初年、都市計画道路が敷地内を2本通るといふ計画が明らかになった。一本は敷地の南西を通過する現在

の補助26号線であり、もう一本は敷地の西端を通る予定であった。補助29号線もこの利用方法の見直しを行い、これを機に三井財閥の地の利用方法の見直しを行い、戸越農園を玉川用賀町（現在の世田谷区用賀）に移転させることとした（昭和9年移転）。昭和7年9月、別邸の南側を小学校用地、公園用地として在原地原町に寄付し、昭和7年10月、東京市城根区より在原地は東京市在原地となり、小学校用地には昭和9年戸越尋常小学校が開校、公園用地は、昭和10年3月24日東京市立戸越公園となった。公園の中心にある池は、戸越公園と三井別邸の間の道の敷設、戸越尋常小学校の建設により形は多少変わったが、細川家が下屋敷を構えて以来のものであった。

三井は、同時に別邸の一部を宅地として分譲した。ゆたか図書館、ゆたか保育園・ゆたか児童センターのある現在の豊町一丁目1番から18番、豊町二丁目2番から5番はこの時分譲されたもので、これらの街区の北東を通る道路が、戸越農園・三井別邸、さらには戸越下屋敷と外部を隔てる道にあたる。

戦中の戸越公園には忠魂碑や大砲の弾丸が置かれ、食糧事情が厳しくなると広場は野菜畑となった。地域の人たちは公園を「ヤマ」と呼んでいたと伝えられている。住宅に囲まれないが、その公園一帯だけ樹木が茂っていたためであろう。昭和20年5月24・25日と、東京市街地は大規模な空襲に遭い、在原地にも大きな被害が出た。その際、戸越公園付近の人は「ヤマに逃げた助かった」と、その時の体験を語り継いでいる。「この空襲で大きな被害が出るなか、戸越公園・戸越国民学校・三井別邸（三井文庫）の一角は戦火を免れた。



三井別邸正門（昭和8年）提供=三井文庫



別邸の「三井坂」跡（平成26年）

4 ● 在原地

古代・中世・近世の歴史と新しい研究成果は各地区の歴史のなかで紹介

中世の大井と大井氏ゆかりの地

鎌倉時代に品川宿があった!

『曾我物語』は、曾我兄弟の仇討ちの物語として知られている。この物語は諸国をめぐる修験者などの宗教者が各地に語り伝えたといわれる。漢字で書かれた真名本の『曾我物語』は、古くからの物語をまとめたものであるが、なかでも妙本寺が最も古い『曾我物語』である。そこに品川宿が登場するのである。鎌倉時代の建久4（1193）年、源頼朝が富士の裾野での巻狩へ向かう道すがら品川宿を訪れたと記されている。また後代の作ではあるが下総千早氏の妙見信仰を伝える『千葉妙見大縁起絵巻』（千葉県千葉市栄福寺蔵）にも、建治元（1275）年の条に品川宿の名が登場する。鎌倉時代の品川宿とはどこにあったのか興味をひく。それは宿泊施設を中心とした近世の品川宿とは異なり、在地領主の支配下で、その居館の周辺に形成された町場であると考えられている。

平安時代末から鎌倉時代に品川の地を開発したのは、大井氏とその流れをくむ品河氏であった。すでにこの時代、大井郷を拠点にした町の形成が始まったことを示している。中世の大井の領域は、現在では想像が難しいほど広大な地域を占めていた。立会川を水源の近くまでさかのぼった地に天台宗の円融寺（目黒区）がある。もと法華寺という中世にさかのぼる日蓮宗寺院で、品川の寺院とも関わりが深い古刹である。



立会川の水源地・清水池



立会川の水源地・碑文谷池

中世品川を法華布教の足場とした僧侶・日什の行状を綴った『門徒古事』という記録がある。その明徳2（1391）年の条に、法華寺の御堂の建設にあたり大井郷の人々に勧進して寄付させたことが記されている。現在、円融寺の仁王門には永禄2（1559）年に造立された金剛力士像があり、東京都の指定文化財となっている。像内に納められた木札の墨書銘には「戦州在原地大井之内碑文谷村妙光法華寺」との記載があり、武州在原地代に入っても碑文谷（目黒区）が大井郷の領域に属していたことがわかる。



円融寺仁王門（目黒区指定有形文化財）



江戸名所図会に描かれた碑文谷法華寺

大井氏と品河氏の活躍

中世の大井は、多摩川左岸の六郷保（大田区）から立会川の流域、最上流部の碑文谷まで、現在の品川区・目黒区の一部を含む広大な領域であった。在地領主である大井氏は多摩川左岸から立会川流域の大井郷を、品河氏が目黒川（中世では品川）の下流域の品河郷をそれぞれ本貫地とした。大井の地は古くから交通の要衝であり、品川の歴史的な出発点でもあった。

大井氏と品河氏は、鎌倉殿源頼朝の御家人として大いに活躍した鎌倉武士であった。鎌倉幕府が編み出した『吾妻鏡』には、寿永3（1184）年から建久6（1195）年にかけての大井氏と品河氏の活躍ぶりが記されている。大井氏の系譜は、『薩摩公系書』に詳しく記されている。

11世紀末から12世紀にかけて関東地方には、豊島氏・葛西氏など桓武平氏系の武士団が台頭していた。その多くは古くから関東に土着した武士であったが、多摩川流域に土着した大井一族は、紀氏の系譜に連なる武士であった。最近の研究では、単なる在地領主ではなく、京都との関係が強い京武者とも推定されている。これらの武士団は、12世紀に国衙の役所に関わる官人として派遣されて、その後東国に根づいたものと考えられている。大井氏・品河氏とも、頼朝の家来として源氏と平氏を中心に戦われた治承・寿永の内乱で、大井実春を中心に活躍した。建治元（1275）年には、京都六条八幡宮（若宮八幡宮 京都市）の造営に対し、「大井人々」「品河人々」

鎌倉古道の寺社

品川の歴史の発展の基盤は、大井にあって、鎌倉古道の要所に大井氏・品河氏の居館が建てられていたことは確かである。大井を流れる立会川沿いには、鎌倉古道と呼ばれる道があり、古くからの寺院が点在している。大井の一角に厚い信仰を集める三ツ又地蔵が祀られている。



三ツ又地蔵



『吾妻鏡』

3 ● 大井地区

第2部 ながわのまち 地域のおゆみとすがた

映像ディスク、データディスクの 2枚のDVDディスクつき!

映像ディスク

区内各所の“いま”を切り取った定点動画、
国・都・区指定の伝統芸能や品川音頭などを収録

●数時間分のまちの様子を、約2分に圧縮した「定点動画」



江戸里神楽 (上)、太々神楽 (下2点)



日々まちの様子が変わる、交通の結節点・大崎付近 (上)
北品川の船だまり (下)



データディスク

区関連の各種資料を豊富に収録

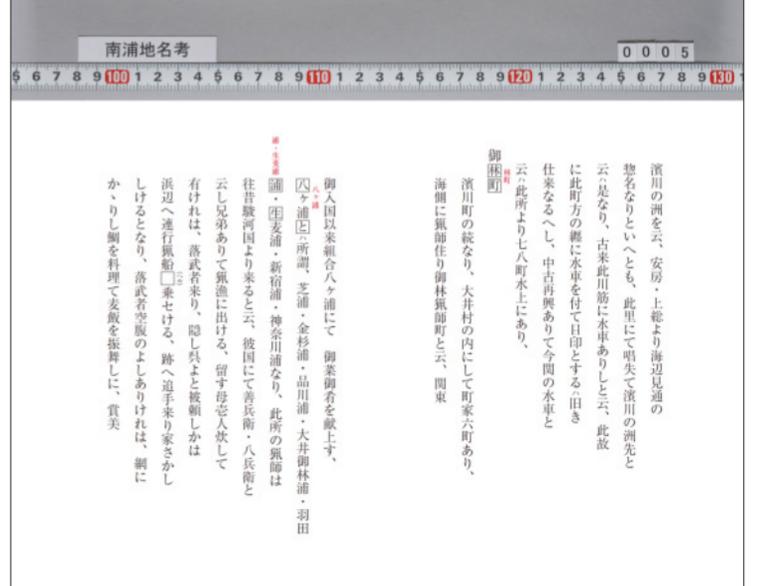
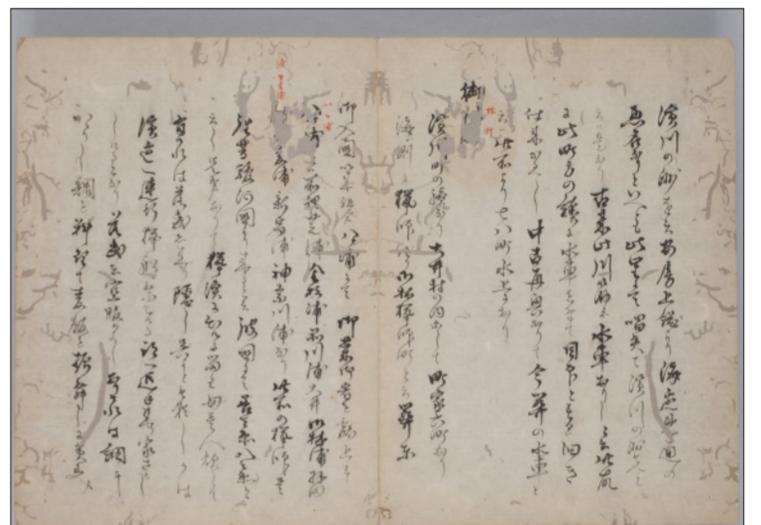
(主な内容の例)

- ◎ Excel ファイルで加工・分析が可能な統計集
——昭和 36 (1961) 年から平成 25 (2013) 年まで、半世紀以上にわたる各種統計を加工可能な Excel データで提供
- ◎ 地域史の研究はもちろん古文書学習の助けともなる史料アーカイブ
——新発見を含む地域の貴重な史料を、カラー写真と「読み」を並べて紹介
- ◎ 創刊号から平成 25 年最終号までの区広報紙、地域ニュース

「南浦地名考」(江戸時代)
史料カラー写真と「読み」を
簡単に見比べ



メニューのトップ画面



『品川区史 2014』のお求めは——

書店 (詳しくは、右の QR コードから)
品川区役所：区政資料コーナー (第三庁舎 3 階)・総務課 (本庁舎 5 階)
品川歴史館、しながわ PLAZA (しながわ観光協会)

